

大月市議会
第4回(9月)
市議会定例会



議会報告

2期目の初議会にあたり、私は「市民の願いに応えながらさらに、現在本市が直面している様々な課題に応える方向を示すよう努力していきたい」と決意を述べました。そして、一般質問では国保税の引き下げや太陽光発電の問題などを提起し、積極的な答弁をいただくことができました。簡単にやりとりを紹介いたします。

高すぎる国保税の引き下げを検討するということ答弁を引き出すことができました

(問) 「国保は特別会計だ」「加入者は全人口の28%だ」と言っても、国保は国民皆保険制度を支えるセーフティネット。保険料も他の保険と違い、事業主負担がない分、国の負担が相応になれば高くなり過ぎ、やっつけていけないのは明らかです。問題を少しでも解決するために、国が支出を決めた保険者支援金を活用するのは当たり前ではありませんか。国保会計の黒字を安定させるための対応を進めることを前提に、速やかな国保税の引き下げを決断すべきです。

(答) 年度末の収支状況を検証して、速やかに税率の引き下げ、収益等を含めた見直しが必要と考えております。

太陽光と住環境との調和を図るため、条例改正、要綱制定に向け検討を進めているという答弁を得られました

(問) 本年3月末の集計で県内市町村別の太陽光発電施設稼働状況において、大月市の認定出力が県内一であることが分かりました。県の指導にもとづき、景観や環境等との調和、土砂災害を防ぐような対応を早急に進める必要があります。

(答) 今年度内を目的に景観条例の改正に向けて取り組んでいます。景観条例では設置に対する規制ができません。太陽光発電設備設置に関する要綱の制定に向けて、庁内で検討を進めております。



住宅地を囲むように設置された太陽光パネル=鳥沢坂尻地区



343筆の国保税引き下げ署名を提出=9月9日、市役所

総務産業常任委員長として本会議報告



総務産業常任委員長として初めての定例会。台風の豪雨災害復旧予算も補正の計上がありましたので、慎重審査を期すため説明資料を手に独自に主要カ所の現地確認をして、その要旨を委員会に報告しました。

採決が行われる最終日の本会議では、付託された案件の審査状況を報告し、役目を果たしました。

決算審査

長期財政見通しとの食い違い、予算の使い方と行政運営の課題などを指摘

9月定例会は決算審査が大事な仕事になりました。決算審査は将来にわたってより効率的な行政運営を行うための予算編成の資料として重要な意味を持ちます。私は本市再生に欠かせない諸点について質疑するとともに、課題や問題点を指摘しました。

26年度の決算において、長期財政見通しとの食い違いが出たのは、中央病院への補助金が増加したため、中央病院への赤字補てんが年々増え、限界にきているため、明快な再建の見通しが求められていることを指摘し、市としての努力方向を提起しました。中央病院を地域医療や介護福祉ネットワークの拠点として一層位置づけて活用し、市民目線で病院再建に取り組む意義を明らかにすること、そして支えていく気風をつくり上げることが必要ではないかと。また投資的経費については、平成29年度には実質公債費比率が20%となることから、長期財政見通しにない歳出については慎重に対応すべきだと指摘しました。さらに問題点としては、くらし応援の施策の不十分さをあげました。

大月駅北側の開発計画について・・・総合的な判断と丁寧な対応を求める

山梨日日新聞(9/4)が報じた計画の概要
名称 フォレストモール大月(仮称)
予定地 興和コンクリート跡地
核店舗 オギノ(大月市初出店)
駐車場 372台
着工 来年4月めざす(開業11月)

まちづくりの曲がり角になりかねないため、民間開発でも、プラスの影響とともに、マイナスのリスクについても評価する必要があります。出店・退店による影響が大きく、事業者との丁寧な協議が必要です。大月駅北側地区の開発について、市長は「住宅系の開発、商業施設や公共施設、福祉施設などが複合的に整備されるよう土地利用を考えており、フォレストの代表者には現在の計画にプラスアルファがなければ市では同意できない意思を明確に伝えていた」と答弁しました。まちづくりと財政再建を考えた総合的な判断と丁寧な対応が求められています。